

おはなし夢くらぶ主催 瀬田昌江さんの戦争体験を聞く会

～2024年8月6日 Fユニバース府中の杜ホールにて～

テープ起こし、資料 内田恵法

1部 瀬田さんのおはなし

昭和20(1945)年8月6日 原爆投下から79年過ぎた今朝、テレビで放映された「原爆死者慰霊式・平和記念式」(平和祈念式典)が広島市平和記念公園にて於いて、式典が営まれた模様をご覧になった方がいると思います。

「安らかにお眠りください 過ちは繰り返しません」と刻まれた箱に、今年新たに500人分の氏名を記録した冊子が納められました。

私は直線距離30キロメートルほど離れた酒造りで有名な所に住んでいました。竹原市出身です。当時、小学校三年生でした。(今は87才です)。

この日は、夏休み中の登校日でした。この頃は、呉から集団疎開してきた子らと一緒に教室で勉強していました。

8月6日、8時15分だった。一年生から六年生まで一斉に帚を持って掃除をしていた時、あたり一面ピカッと光った。誰かが、「真っ青に晴れた遠くに、白いモクモクとした雲が見えるよ」と言っていました。

教室の窓にもたれて、青空に白いキノコ雲がくっきり見えていました。この様子は今も鮮明に覚えています。その日は、家に帰っても、そのことは話題にしませんでした。

次の日から近所に住む青年が広島から戻って来ていて、母から聞いた話だが、卵を口にほおぼるとこっちの頬から、零れ落ちたとか。こんな似たような話が二つ三つありましたね。

私の叔父さんは通勤列車で、丁度広島駅に着いた時にピカッと来て、皆は列車から飛び降りたが叔父さんは17時まで車外に出なかったそうです。デッキまで行ったら、二人の女学生が降りようとしていたので「リュックを離してはだめだよ」と言って引っ張って車内に留まらせました。

叔父が動かない列車から降り、山陽本線と並行している呉線に沿って歩いて帰った途中の様子は、何人もの人が水を求めて来ました。その中には、もう肉が垂れさがった人もいたそうです。叔父さんは昼めしのおにぎりを包んでいた風呂敷で肉が落ちない様、包み込んでやったそうです。

翌日から父は叔父さんを探しに、毎日広島市内を探し回ったそうです。最終的に叔父さんも、白血病で亡くなりましたし、父もがんで亡くなったのですが、原因はピカドンの死の灰を降らせた原爆のせいだと思っています。

私は広島から離れた田舎の小学校でしたが、高校は広島市内の学校に通いました。同級生にケロイドの肌になっていた子がいて、普段は見えませんが運動などして髪がなびくと、うなじにケロイドの肌を見ましたが、私たちは一言も原爆のことや戦争のことを話したことはありません。

B29 が飛んで来ると、みんな物陰に身を隠して空を見上げていました。

小学2年生の頃は、警戒警報が鳴ると防空頭巾を被り、横穴（防空壕）へ逃げ込んで通り過ぎるのをじっと待っていました。

私たちは、小学校の運動場を全部耕して、さつまいもを植えて栽培しました。採れたさつまいもは陸軍さんの為に供出しました。

皆さんは「灯火管制」を知っていますか？ 夜、空襲が始まると、どの家も電灯に風呂敷を被せて、外に灯りが漏れないようにしていました。他に、ふすまを外して、窓に立てかけて灯りが戸外に漏れないように工夫していました。大人は、憲兵の目を気にしていました。家々を回って見て行き、厳しく取り締まっていました。

原爆で、一面焼け野原になった広島では、この先40年は何も出来ないのでは、と噂が飛び交ったけど、翌年の春には、広島の高校近くに在る比治山（標高71m）に登ると、青々と芽吹いた木々が見られました。

新藤兼人氏が映画の撮影している様子を、授業を受けながら見ていたものです。

市内には、川が6～7本あり、閃光を浴びた後、ドーム近くの許野洲川に、みんな暑くて暑くて、水を求めて水が無くなるほどに飛び込んだ人がいっぱいいました。

市内に路面電車が有り、壁に張り付けられた様子が残っていた。

ピカドンは6,000度ほどの光の力があり、直接光に当たると肌も骨も溶けてしまったようです。この時の様子は、ぜひ広島原爆資料館を訪ねて行って見学してください。衣類や、水筒、弁当箱が姿を変えて展示して有ります。 こういうのを見ると、戦争は嫌だなと思います。しかし家族でこのような惨事について話し合ったことが有りません

私の従兄は戦地で戦死していますが、明治生まれの父は戦地に行っていません。だから友達とは戦争の話はしません。

6日の朝、原爆の投下目標とした広島には軍部が有った事と、この日広島上空は良く晴れていて目標が確認できたから。米軍は京都だけには落とさないと決めていたようです。9日の昼、目標とした福岡上空は曇っていて、地上が確認できなかったの、仕方なく長崎に落とされたとのこと。

原爆体験者は百歳に近く高齢になり、語り部の人々は亡くなって少なくなっている。

原爆の被害に遭った広島でも、長崎でも、当時の語り部が高齢のため少なくなっています。若い人たちのために、ぜひ語り継いでください。

夏休みが終わって、新学期（九月）では学校の先生から原爆について、何の話もありませんでした。すでに戦争は終わっていましたからでしょうか。

終戦後、戦地から兵隊さんが帰国してきました。昭和20年から24年ころまでに生まれた人がたくさん増えて、学校に上がるころには、教室に入れないうほどでした。

食料について、戦後すぐコメが無い。農家で牛もいたし、柿も採れた、野菜もあった。

町からは、買い出しに何人も来ていた。

学校の弁当にはおにぎりを持ち、親は学校へ味噌汁を作って持参していました。

私にだめだったのは米国から配給された脱脂粉乳で、全く口に入れることはできませんでした。今も牛乳は飲めません。(母乳が出なかったのも、牛乳で育ったそうですが……)

私には 兄二人と妹が一人います。父は転勤族でしたので、兄弟皆、生まれたところが違います。私は呉の竹原氏です。蔵が多くある街です

子供の頃の遊び、楽しかった事ですか？ 缶蹴り、かくれんぼ、などしました。夏は毎日川遊びに行っていました。当時は水着が無かったので、シミーズを着て川の滝滑りをして遊びました。楽しかったです。

日常はのどかに暮らしていました。呉に叔父夫婦が住んでいましたが、疎開させていないから着の身着のまま帰って来ました。一時、11人家族で暮らしていました。一日1升の米を炊いて平らげていました。昼の代用食はじゃが芋を塩茹でにして、塩を振って食べました。肉じゃがは好きですが、茹でたじゃが芋は、今はもう見たくも有りません。

家は農家ですから、もち米は有りました、小豆も有りましたが砂糖だけが有りません。好きなおはぎが出来ませんでした。

ある時砂糖が配給されたのですが、一斗缶に入った焦げ茶色の砂糖でした。

子どもには森永のキャラメルを貰いました。兄たちはすぐ食べてしまいました。私は、後でと思い、タンスの引き出しに閉まっておきましたら、後日気づいた時は蟻が行列を作っていました。それからは蟻の行列は大嫌いです。

不思議な話をしますね。大抵、蛇は卵から孵りますが、ママシは子を産むんですね。子供のころ見ました。余談ですが昔、お婆さんはママシにかまれ、その手が頭まで上がらず、以来髪を梳けませんでした。

むかし多くの家では、アオダイショウでしょうか、大きな蛇が天井裏に居たものです。

夜になると、屋根裏のネズミを追いかけて、ガサガサガサと追いかける大きな音がしていました。

ある日、昼寝をしていると、私の腕の横に蛇と一緒に横たわって居たり、二階へつながる手摺に絡みついていたこともありました。その時はびっくりしましたが、噛みつかれたことはありませんでした。

ただ一回だけ、蛇を見つけた父が尻尾を引っ張り抜きだした頭が偶然、帰って来てそこに居た妹の腕にかみついた。大変なことをしたと思った父は、当時はまだ血清など有りませんでしたから、毒の後の血を吸い出して事なきを得ました。幸い毒蛇ではなかったことが幸いでした。

ゴキブリですか、そのころは見たことが有りません、昭和47年ころ福岡で初めて見ました。

疎開してきた子らと一緒に遊ぶことは？

子どもらは、お寺などで寝泊まりしていたようですが、近所にお寺はありませんでしたから、疎開してきた子らとは遊ばませんでした。

当時農家をしていて牛を飼っていましたが、米は全て供出し物不足でした。町から食料を買いに来た人をお母さんは自宅に泊めてあげたり、物乞い（こじき）を納屋に泊めていたこともありました。今思えば祖母も母も慈悲深い人でした。今も私は毎晩枕元で、亡き母に「お母さんありがとう」と言ってから就寝しています。（2年前に亡くなった主人には、言ったことが有りませんが）

当時経験したことは今役立っていますか？

高校の友達ですが、被爆者手帳を持っていて、広島カープの応援が優先入場できる。この人は今も髪はふさふさです。病気の種類によっては、潜伏期間が30年過ぎて出てくる病もあるが、被爆はどうでしょうかね。この友人は、一回も病院にかかっていないと言っていました。

叔父は、広島駅に居たので、すぐ貰えませんでした。白血病で入院していたのですが。どういう訳か被爆者手帳は葬式の当日に届きました。このことは許せません。被爆者はピカドンがあった当日に10万人、年末に4万人。

亡くなった方には申し訳ないが、8月6日、8月9日の投下！被爆のあった惨事を見て、あれで戦争をやめたと思います。あれが無かったら、まだ戦争を続けていたと思われます。不適切な物言いです。

やっぱり母として子供を戦地へ向かわせることは、当時名誉なことかもしれないが、皆「万歳、万歳」と言って、近所の人も、私たちも、みな「万歳、万歳」と日の丸を振って見送りました。あの様子を見るたびに、母親はたまらないと思います。

私は、戦火の中を走り逃げ回った経験はありません。田舎に住んでいたから。ただ、B29爆撃機はよく飛んでいました。夜の空襲警報は一番怖かったです。家の中を真っ暗にして、息をひそめていました。

平常時の生活が変わっていく様子がありましたか？

小学校に上がる前、母の実家で暮らしていた時、「シンガポール陥落」という事で、子供らは提灯行列をした覚えがあります。

8月になると、久世輝彦さんの映画が再放送されますね。

戦後、いい時代に育っていると思う。オヤツや飲み物がいっぱい溢れていますね。

私は運動会の時、物不足で運動会に着る白い体操着が無く、母は白いシャツでキャラコのパンツを縫ってくれました。また、靴が有りません。自分で草鞋を編んで作って学校へ行っていました。雨降りの時は下駄をはいて行きました。下駄ですよ。

いつだったか、父が広島の闇市で靴を買ってきてくれましたが、右足だけしか有りませんでした。

農家だから、食べ物に苦勞（不便）しなかったけど、着るもの、履くものが有りませんでした。

農家だから、藁わらじがいっぱいありましたから、草鞋わらじを作つて履はいていました。

（今も妹は布草履はきを作つています）

今の人は、ひとたび戦争が起きると生きられないと思われます。物がない時代に戻れないのではないでしょうか、我慢できないのでは？

軍隊が出来て徴兵されるとなるとどうでしょうか？平和を訴えていきたいですが、この気持ちをどうやつて大きく広げてよいやらわかりません。

それに向けて今出来ることは？ 先ず、知ること、聞いて、読んで、考えて！です。

最後に、語り部をしている人の平均年齢は86才です。高齢化です。話を聞いた皆さんが語り継いでいってください。

府中に来て、もう21年になります。地域活動として「四つ葉の会」を立ち上げ元気に活動しています。

では、皆さま、今日は聞いていただきありがとうございました。

2部 平和のメッセージ～絵本と語り～

- ・『へいわってすてきだね』（安里有生/作）福島則子
- ・『2ひきのかえる』（新美南吉/作）松原悦子
- ・『へいわとせんそう』（谷川俊太郎/作）小野沢せつ子

3部 お茶会

~~~~~

瀬田さんにお願いして・・・

私達おはなし夢くらぶの語りの会を1回目から現在まで15年間毎回聞きに来てくださっている瀬田昌江さんは、広島生まれで8月6日の広島原爆投下の日、遠く離れた学校の窓から同級生たちと空を見上げていたとのこと・・・。

思えば、今まで、悲惨な戦争の体験談を聞く会を幾度となく経験してきました。親元を離れて疎開した子ども達のことも。けれど、広島で生活していた巷の子ども達はどうしていたのか！その声はなかなか届いていないことに気が付きました。

そこで、今年戦後 79 年を迎えた 8 月 6 日の日に、爆心地と 30 キロほど離れていた瀬田さんに、そこでの生活をお聞きしたいとお願いしました。そして瀬田さんからご快諾いただき今回の運びとなりました。

会の最後には、参加の皆さまの戦争への思いなどお聞きする時間もあり、瀬田さんを中心に皆さまの思いを共有するひと時となりました。

瀬田さんがおっしゃった「皆さん、見たこと、聞いたこと、考えたことを、必ず語り継いでいってくださいね」は、私達の忘れてはいけないこと、しっかりと胸に刻みました。

2024.8.6 おはなし夢くらぶ代表 須山優子

~~~~~

補足資料

資料作成：内田恵法

府中市役所から見た半径 30 Km

